研究課題：新生児卵巣嚢腫の当院治療成績の検討

１．　研究の目的

胎児・新生児では母体からの女性ホルモンの影響を受けて卵巣嚢腫を認めることがあります。
出生後は母体からの女性ホルモンの供給がなくなるので自然縮小することが期待されますが、4-5cm 以上では捻転のリスクが高くなり、壊死してしまう症例もあるため、外科治療が選択される場合もあります。しかし、壊死が疑われた症例のなかでも温存ができた症例も報告されており、できる限りの卵巣温存に向けて、治療方針の再検討が必要です。
当院の過去の症例を改めて検討し、治療方針の再考を行います。

２．　研究の方法

2009/4/1～2019/3/31 の間で、当院で新生児期、または NICU 滞在中に卵巣嚢腫・卵巣腫瘍・卵巣奇形腫の診断名がついている症例を抽出し、在胎週数、出生体重、胎児診断例、診断時の大きさ、外科紹介時の捻転壊死の有無、外科的介入の有無などを検討させていただきます。

３．　研究期間
研究承認日～2020年３月31日

４．　研究に用いる資料・情報の種類
上記に該当する患者様の手術画像・検査データ等を参照し、データとして解析させていただきます。

５．　外部への資料・情報の提供、研究成果の公表
研究成果が出ましたら、学術集会や論文雑誌等でご報告させていただきます。

６．　研究組織
埼玉県立小児医療センター　　外科　医員　林　健太郎

7.　お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2020年3月31日まで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）